



教皇様の叢

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済 © 1992 発行所 財団法人 精道教育促進協会 〒659兵庫県芦屋市船戸町12-6 TEL 0797-31-3452・FAX 0797-31-3448

聖母への奉献

(教皇様はチエストコワで若者たちと共に聖母への奉献の祈りをされた。)

「私たちは御身の保護のもとに逃れます。神の聖なる御母よ。」
世界各地から来た私たち若者はみもとに集います。キリストの御母、教会の御母、信仰、希望、愛の御母よ、私たちの若さをお捧げします。
私たちはみもとに参りました。神の御母、生命の御母、愛の御母。私たちの集うこの場所では、何世紀にもわたって自由を求める人が御身の助けを受けました。御身のそばでは、たとえ奴隷状態であろうと、自由を感じることができず。今日、ここ御身の家は、世界中から集まった私たち若者全員のための家となりました。今、

チエストコワは若者たちの首都です。

私たちは御身を母とおおいで、やって来ました。御身の取り次ぎにより、真の自由とまことの信仰、人生の意味と希望をキリストに願います。御母よ、御身はご存じです。私たちの限界も、夢や将来への希望と可能性も。私たちのうちにある希望が、常に実を結ぶことができますように。(1ペトロ 三・十五参照)

「必要に迫られた私たちの祈願の叫びを聞けず、常に全ての危険から私たちをお守りください。栄えある、幸いな処女よ...」
私たちは切なる願いを抱いています。私たちはキリストのために生きたいのです。人間の行くべき道々を示す、最も確かな教師であ

る御身に向かいます。絶望状態を乗り越えることができますよう、お助けください。私たちを襲うかに思えるすべてのことよりも強くなれるよう、助けてください。私たちの日々の生活は、私たちの国々での御身の様々なイメージと同じくらい、相互に異なっています。ほんものの自分であることができよう、お助けください。

私たちのうちにあつて、内外から脅かされている全てのものを、御身にゆだねます。罪と弱さを癒し、敗北と過ちにおちいらぬようお助けください。墮落した生活、生命と健康を脅かす全てのものから私たちをお守りください。やむを得ず、忍ばざるを得ない孤独から、私たちをお守りください。多くの人が孤独にひしがれています。どうか絶望におちいることのありませんように。

失業者、家のない人々、将来におびえる人々を御身にゆだねます。
世界と私たち自身を、暴力と、現代さまざまな装いで現れる全体主義から救うことができますよう、

お助けください。私たちは直接には何の力も持ちえません。

御母よ、若い家庭と、神への奉仕に完全に身を捧げた人々を御身にゆだねます。御母よ、一人一人の召し出しを御身にゆだねます。私たち各自の生活が、福音の実を結ぶことができますように。

私たちは御身と共に祈りたいのです。御子の道を探ね求める全ての人のために、知らざる人、知らうとしない人のために。私たちの集いについて、神を知らない人、キリストを、御身を知らない人々のために。

「われらの貴婦人、弁護者、仲介者、慰め主よ。私たちを御身の御子と和解させ、御子の手にゆだねてください。私たちに代わってお話しください。」

御身の信仰と希望と愛をお教えください。御子に出会いに行くことをお教えください。御子のもとへお導きください。御子が私たちの全ての問いに答えてください。すように！他の人々、私たちより貧しく、孤独な人々に会いに出ていくことをお教えください。

受胎から自然の死に至るまで、生命に仕えることをお教えください。この世の生活を喜んで受け入れることをお教えください。
私たちの心、私たちの家、国が開かれたものでありますように。私たちを恐れから解放してください、イエズスの福音の貧者一子供たち、老人、病人、外国人一を恐れず、世界と人類の救い主の前

に戸を開くことができるように。生命に秘義を取り戻してください。生命とそれを育んだもの、それに意味を与える全てのものに。愛に秘義を取り戻してください、貞潔を通じて。御身によって、貞潔は秘義への応答となります。

「心の清い人は幸せである、彼らは神を見るであろう。」(マテオ五・八) 不純は人間の最もひどい墮落であり、憎しみ、殺害、戦争のもととなります。

私たちは未来に対して責任を持ちたいと願っています。二十一世紀を迎える教会と国家の未来に対して。神への信仰と人生の意味を子供たちに伝えるために。

教会と、社会生活に参加することを教えるべきです。世界の運命と、この世での私たちの祖国に対し、責任を持つことをお教えください。

知恵の御母よ、神法に基づき、人類に奉仕することのできる文明と文化を築くことをお教えください。私たちがなすべきことから逃げ出しませんように。現代世界は福音化されることを待ち望んでいます。私たち各自はそれぞれのやり方で、キリストと共に福音宣教のために働き、この世を聖化したいと望んでいます。

私たちを御子のもとへお連れください。御子と和解させてください。私たちが御子にゆだね、御子のもとへ連れ帰ってください。
アーメン。
(九一・八・十五)

若者たちへ

(教皇様は、世間との接し方について質問を受けになった。)

この祝祭が終れば、私たちはすぐ毎日の生活に戻ります。

私たちはこの世の未来です。この世は、失意と競争の世界です。

孤独と恐怖、核兵器、犯罪、失業、煩悶、麻薬、自殺、人種差別、拷問やテロリズムに満ちています。

第三世界、第四世界までも、私たちの責任として肩にのしかかっています。

失業は、私たちのせいですか？ 仕事が見つからないのは、私たちが悪いのでしょうか？ 私たちは若いのです、生きたいのです。

家庭を築こうという計画、平和と分かち合いを求める願い、今までの考えを改めたいという望み、人々と親しく交わろうとする希望を抱いて私たちはここに集まりました。

私たちの前に広がる未来はすばらしいものではないのでしょうか？

教皇様が私たちの立場にあればどうなさいますか？

教皇様、どうか禁令「なすべからず」ではなく、生きるための道理をお与えください。

「一人の人をまったく夢中にする祈り、つまり本当の祈りの助けになるのは、砂漠の孤独よりも、内的な信心である。」(「拓」四六〇番)

「拓」ホセマリア・エスクリバー著 新田壮一郎訳

(教皇様は答えられた。)

親愛なる皆さん、私があなた方の立場にいたら何をやるでしょうか？ 皆さんと共に、この世界を注意深く眺めるでしょう。自分の良心を見つめ、同時に福音書をひもとくことでしょう。

ある時イエズスは、五千人もの人々が御言葉をお聞き、病気を治してもらおう、また生きる理由を見つけたそうとして集まってきたのに気づかれました。ところが食物がない。日は暮れ、そこは荒野でした。イエズスは人々を空腹で帰らせるに忍びなかつたのですが、使徒たちにはどうすることも出来ず「大麦のパン五つと魚二匹を持っている子供が一人いますが、こんなに大勢の人では何の足にもなりません」(ヨハネ六・九)と言っただけでした。

さて、皆さんはこの世で大変困っている人々を前にして、あふれんばかりの誠実さと寛大さを持っていると思わうのですが、それなのに「こんなに人が多くては、私たちの善意など、何の役にたつだろう」と言っているのでしょうか？

まず、自分の持っているものに対して感謝することから始めてください。この世の様々な美点を認めることから、兄弟姉妹の善い行いを見いだすことから、そして

神が自分の心に良い性格を与えてくださったことを、ただ認めるだけでもよろしい、そこから始めてください。「平和と、人々との真の交わりが欲しい。分かち合いたい。私たちは幸せだ、自由の国において、私たちの勉学のために犠牲を払ってくれる家族の支えがあるから。家庭を築こうと考えている。生活の上でも、人生においても成功したい。必要なら考え方を変えたいと思っている。」皆さんの言葉を聞き、私は大変嬉しくなりました。キリストが理想に満ちた若い人々を愛されるのも不思議ではありません。福音書にある金持ちの青年に御目をとめられた時のように。(全世界の若者たちへの手紙、一九八五年三月) さらには言えば、真理と善、そして人間の尊厳への敬意に関しては、妥協を受け入れないでください。こ

皆さんが育てておられる子供たちの人間的、超自然的な尊厳についてよく黙想してください。昔と同じように今も、生命を守るために寛大な努力をすることができません。人それぞれ私たちが贖ってくださった神の無限の愛の対象です。両親に固有な責任を忘れず、また神の摂理に信頼しつつ、出産の義務から逃げぬよう努めるなら、より高い価値の証を世に示すことができます。このような正しい態度は、現代の避妊指

れらは来たるべき世界の根本なのですから。けれどもこの理想は、厳しい試練を経なければなりません。果たしてこの世の困難な現実には立ち向かえるでしょうか。単なる夢のまま終わるのか、花火のような一瞬の計画にすぎないのでしょうか。今夜の集いはこの場限りの祝宴で終わるのでしょうか。社会悪の数々は時に皆さんの心を煩悶の極みにまで駆り立てます。甚だしい人々の孤独、無数の若者たちの失業、ありとあらゆる悲惨の数々、誤った自由の幻想。それに、核の進歩や人工的な機械装置の侵略や、ますます非人権化した人間性を失い、胎児の売買にまで行き着いてしまったテクノロジー。これらのものには様々の危険性が内在します。人間の罪や利己的な不安と明らかにつながっているも

愛する家族の皆さん

向に挑戦することになり、生命を否定する傾向―多くの場合、母親の胎内にいる胎児の墮胎―を拒むことにつながります。胎児殺しは第二バチカン公会議も言うように観主義や利己主義に反対して、教会は公然と生命を守ります。すなわち、一人の人間の生命の中にキリスト御自身であるあの輝き(マリアが言われた「はい、お言葉の通りになりますように」)を見守るのです。世界を苦しめている「いいえ神の言葉の拒絶」に対して教会はこの生きた「はい(神の言葉の受諾)」をもって答え、生命を脅かし傷つける全体的ことから人間と世界を守るのです。」(家庭三〇番) (九一・五・十四)

のを、恐れずにはつきりと非難してください。不寛容、人種差別、拷問、売春、麻薬、絶望への誘惑、犯罪、墮胎、愛を取るにたりないものとしてしまう態度、動機や訴えは何であれ、盲目的で冷酷なテロリズム―これらについてはもはや他言を要しません。カサブランカで回教徒の若者たちを前にして私は次のように神に祈りました。「私たちが人間の無秩序を正当化しているかぎり、御身の御名を呼び求めることをお許しにならないでください」と。神が悪を望まないことは明らかだからです。神が人間をお造りになったのは愛と平和と連帯のため、この世を正しく管理するためでした。イエズスのように、これらの苦しみを目にして哀れと感じる心を持ち続けてください。悪は悪だと叫び続けてください。(続く)

「世界に影を投げかけている悲

キリストがカトリック教会を創設された

教会シリーズ ①

1 今日から新しいサイクルで教会についての教理的なお話を致します。教会については、

ニケア・コンスタンチノープル信経で「我は信ず、一・聖・公(カトリック)・使徒継承の教会を」と言われています。この信経は、その先行する「使徒信経」と同じように、教会についての真理を端的に聖霊と結び付けます。いわく「我は信ず、聖霊、聖・公(カトリック)なる教会を」と。聖霊から教会への筋道に固有の論理があることは、聖トマスが教会に関する要理の始めでこう説明しています。

「人一つ一つの体と一つの霊魂があり、またこの体には幾つもの手足があることはわかりますね。そのようにカトリック教会も一つの体で多くの手足があります。この体に生命を与える霊魂は聖霊です。この道理からして、聖霊への信仰を表明したならば、聖にして公(カトリック)なる教会を信ずるものと命じられるのです。」(使徒信経解説、第九条参照)

2 ニケア・コンスタンチノープル信経はこの教会を「一・聖・公・使徒継承」と言っています。これがいわゆる教会の「しるし」で、少々手引き的な説明が要ります。もっともその意義について

は、もっと後の教理解説の所で話します。最近二回の公会議が言っていることを聞きましょう。第一バチカン公会議は教会の唯一性を叙述的とも言える言葉で宣言しました。「永遠の牧者は、聖なる教会を建てることを決意した。この教会において、生きた神の家にいるように、全信者が唯一の信仰と愛の絆によって結ばれているようにされた。」(カトリック教会文書資料集、三〇五〇番)

ては、もっと後の教理解説の所で話します。最近二回の公会議が言っていることを聞きましょう。第一バチカン公会議は教会の唯一性を叙述的とも言える言葉で宣言しました。「永遠の牧者は、聖なる教会を建てることを決意した。この教会において、生きた神の家にいるように、全信者が唯一の信仰と愛の絆によって結ばれているようにされた。」(カトリック教会文書資料集、三〇五〇番)

次に、第二バチカン公会議はこう述べています。曰く「唯一の仲介者キリストは、自分の聖なる教会、信仰・希望・愛の共同体を、目に見える組織としてこの地上に設立し、これを絶え間なくささえられる。」また「：地上の教会と天上の善に飾られた教会は、：人的要素と神的要素によって形成される複雑な一つの实在である。：これが信経の中で宣言するキリストの唯一の教会である。」(教会憲章、八番)公会議は教えます。この教会は「キリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具である」と。(同一番)信仰簡条で唱える教会の唯一性は、明らかに普通の教会に固有のものであり、個別(または地方)教会もこの唯一性を共有する限りにおいて普通であります。唯一性は始めから、つまり聖霊降臨の時から認知され、説教されているこの教会の一特性です。ですから、唯一性は教会の始原的、本質的な現実なのであって、単に未来のある時点で到達したいと希望している理想のようなものではないのです。この希望と探究に意義があり得るのは、キリストにおける信者再一致の歴史的实现に関してでありませんが、エフェソ人への手紙で解明されている真理を無にすることは出来ません。「体は一つ、霊は一つ、あなたがたが召し出されることによって、一つの希望に召されたのと同様に。」(エフェソ四・四)

3 しかしながら、この教会の歴史は、そもそもの始まりから緊張と抑圧のただなかに妥協して唯一性を絞り出してきたのであって、極端な場合には訴えや非難が使徒たちからさえ出てくる始末でした。特に聖パウロは「キリストは分けられているのか」と叫びました。(一コリント一・十三)反対しあうのは、昔も今も人間の癖なのです。まるで人々を散らす役割を引き受けねばならない、または引き受けたいかのようです。あなたがたも聖書のバベルの話に生き生きと描かれている有様の通りです。

これは教会の始まりについての真理であり、信仰簡条で「われは信ず、唯一：の教会を」と唱えるのです。

それは教会の教父や牧者は常に唯一性を求め、バベルとは対照的な聖霊降臨の光に訴えました。第二バチカン公会議は言います。「信ずる者の中に住み、全教会を満たし治めている聖霊は、信者の感嘆すべき交わりを実現し、すべての人をキリストにおいて堅く結び合わせて、教会の一致の源泉となつて居る。」(エキユメニズムに関する教令、二番) あらゆる分裂を克服してキリスト者の再統一を目指す全ての正直な努力が聖霊から来るのを認知することができるとは、特に現今、教会にとって喜び、希望、祈りの源泉であるに違いありません。

この教会は「聖なる」とも言います。直ちに明言しますが、教会が聖であるのは、その起源が神の制定によるものだからです。教会を制定されたキリストは聖なる御方であり、十字架の犠牲によって教会に聖霊の賜物を勝ち得てくださいました。聖霊は教会の唯一性の源泉であり、基礎であると同時に、教会の聖性についてもその涵養することのない源泉です。教会が聖であるのはまた、この目的を達成するための諸手段そのものにキリストの聖性と聖霊が内包されているからでもあります。諸手段とは私たちに對する神の愛の啓示と愛についての二重の掟とに要約されるキリストの教えであり、七つの秘跡と全ての典礼、特に御聖

4 信仰簡条の中の信仰告白でこの教会は「聖なる」とも言います。直ちに明言しますが、教会が聖であるのは、その起源が神の制定によるものだからです。教会を制定されたキリストは聖なる御方であり、十字架の犠牲によって教会に聖霊の賜物を勝ち得てくださいました。聖霊は教会の唯一性の源泉であり、基礎であると同時に、教会の聖性についてもその涵養することのない源泉です。教会が聖であるのはまた、この目的を達成するための諸手段そのものにキリストの聖性と聖霊が内包されているからでもあります。諸手段とは私たちに對する神の愛の啓示と愛についての二重の掟とに要約されるキリストの教えであり、七つの秘跡と全ての典礼、特に御聖

体であり、また祈りの生活です。つまり神的な生涯計画であつて、信者に注入されて栄養となり、さらに全教会の善のための多種多様なカリスマで濃縮された恵みによって、そこに聖霊がお働きになるのです。

このことも基本的な真理であつて、信仰簡条で宣言されていますし、すでにエフェソ人への手紙で述べられ、教会の聖性の理由が説明されています。「キリストが教会を愛し、そのために命をあたえられたように、：教会を：聖とするためであり。：。」(エフェソ五・二五-二六) キリストは聖霊を注ぎ込むことによって、教会を聖なるものとされました。第二バチカン公会議もこう言っています。「ベントコステの日に聖霊が教会を常に聖化する。：ためであつた。」(教会憲章、四番)

これは教会の聖性を信ずる私たちの信仰の存在論的な基礎であります。この聖性は、キリスト信者の生涯や歴史上の宗教的、社会的な諸事実としていろいろな形で明証されており、信仰簡条に含まれている真理を絶えず確認するものです。歴史はこの真理を発見するための一つの実証的方法であり、私たちが信じている現存を、ともかくも確認するためでもあります。実際、この教会のメンバーの多くが聖人であると言うことができず。多くのメンバーが成聖の恩寵の状態で生活しているということによって、少なくとも普通の聖性

5 一神の恩寵を受けて不可能なことに着手し、それを完成させない。可能なことなら、誰でもするのだから。」(「鍛」二二六番)

「鍛」 ホセマリア・エスクリバー著 新田壮一郎訳
定価一六〇〇円 千三〇〇円

